

## ふくい社会福祉

11  
No.386

## 温故知新 ～一途に社協道～

## ふくい弁に愛着を

～「旅の贈りもの 明日へ」から～

橋本 由紀さん（福井市）

福井を舞台に人生の岐路を迎えた人々が、自分を見つめ直していく姿を描いた映画のエキストラとボランティアスタッフを募集していることを知り、自分に出来ることでお手伝いしたいと思い、ボランティアスタッフに応募しました。

そんな中、映画が福井を舞台にしていることもあり、出演者に「ふくい弁」を指導する演劇経験者を探しているとのことで、20代の頃ラジオ放送の演劇経験があった私は、人生経験の一つだと意を決して立候補しました。

ふくい弁の指導といっても、イントネーションだけではなく、台本のセリフをふくい弁に直し、色々なパターンを台本に書き込んで監督に提案していきます。

しかし、セリフの意味や演者のイメージ等を重んじていくと、実際にはセリフとして使える言葉が限られてしまいます。福井ではよく使う言葉でも全国の人に伝わらなければ意味がないからです。

また、ふくい弁は言葉の終わりがうねるような独特のイントネーションがあったり、ふくい弁に集中してしまうと感情移入が疎かになってしまうなど演じる俳優さんも随分と苦労されていました。

一方で、福井の人は、テレビのインタビュー等でふくい弁を聞いても「あんなしゃべり方はしていない」と違和感を持つ方も多いようです。でも、方言は、その土地の文化や風土、人の気質を表すものなので、私自身はこれからも大好きなふくい弁に愛着を持って、大切に使いたいと思っています。

今回は、普段の生活では関わることがないであろう人たちとふれあう貴重な経験をさせてもらいました。今は、ふくい弁の指導という大役を終えホッとしています。もう少し時間が経てば生涯忘れられない思い出になるのだらうと思っています。

今後も、大好きな福井で自分のできることを、できるときにお手伝いしていこうと思います。



## 表紙の企画について

様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。



# 社会的養護関係施設の福祉サービス第三者評価を義務化!

平成24年度から、社会的養護関係施設については、福祉サービス第三者評価および自己評価の実施が義務付けられました。本稿では、その背景や経緯、仕組みについて紹介します。

## 福井県での

### 対象施設とその特徴

社会的養護関係施設とは、「保護者の適切な養育を受けられない子どもを、公的責任で社会的に養育するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行う施設」です。福井県には、児童養護施設が5施設、乳児院が2施設、児童自立支援施設および母子生活支援施設が1施設ずつの合計9施設があります。

なお、それ以外では、情緒障害児短期治療施設と里親・ファミリーホーム、自立援助ホームがあります。

また、社会的養護関係施設は、介護保険施設や障害者福祉施設等のように利用者自らが施設を選び直接契約をする「利用契約制度」ではなく、行政がどのような支援を受けることが子どもの最善の利益になるか、入所等を専門的知見に基づいて決める「措置制度」(ただし、母子生活支援施設は行政への申込み・決定方式)となっており、大きな特徴があります。

## 施設の役割と機能の変化

社会的養護は、かつては、親がいない、または親に育てられない子どもへの施策でしたが、現在は、大半が虐待を受けて心に傷を持つ子ども、障害のある子ども、あるいはDV(ドメスティックバイオレンス)被害の母子への支援と、その役割・機能も変化をしています。(表1)ただし、こうした変化に対する施設のハード面・ソフト面ともに変革が遅れているのが現状です。

〔表1〕厚労省資料：児童養護施設の児童の措置理由(平成20年2月1日現在)

父の死亡	195	(0.6%)
母の死亡	580	(1.8%)
父の行方不明	329	(1.0%)
母の行方不明	1869	(5.9%)
父母の離婚	1804	(4.1%)
父母の不和	252	(0.8%)
父の病弱	863	(2.6%)
母の病弱	1048	(3.3%)
父の入院	377	(1.0%)
母の入院	1506	(4.6%)
父の就労	1782	(5.6%)
母の就労	1293	(4.1%)
父の精神疾患等	180	(0.6%)
母の精神疾患等	2117	(10.1%)
父の放浪・怠惰	654	(2.1%)
母の放浪・怠惰	3707	(11.7%)
父の虐待・酷使	1449	(4.6%)
母の虐待・酷使	2893	(9.0%)
養育拒否	168	(0.5%)
養育拒否の経済的理由	1378	(4.4%)
養育拒否の経済的理由	2390	(7.6%)
児童の問題による	1047	(3.3%)
その他	2874	(9.0%)
不記	631	(2.0%)
合計	31,593	(100.0%)

## 社会的養護の課題と

### 将来像の取り組み

こうした現状を踏まえ、国は、平成23年1月に「児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会」を設置し、短期的課題と中長期的課題を集中的に検討し、同年7月には、同委員会と社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会で「社会的養護の課題と将来像」をとりまとめています。

## 施設の運営の

### 質の向上に向けて

社会的養護の課題と将来像へ取り組みの一つとして、特に施設の運営の質の格差が大きいため、以下のことを実施することとなりました。

(1) 保育所保育指針に相当するようなものが社会的養護関係施設にはなかったため、施設種別ごとに運営理念等を示す「指針」を作成すること。併せて、施設種別ごとに実践的な技術や知恵を言語化した「手引書」(指

針の解説書)を作成すること。

(2) 子どもが施設を選べない措置施設であり、施設長の親権代行もある中で、質の向上の取り組みとして3年に1回以上の専門性を踏まえた外部の目を入れる第三者評価の受審と結果の公表および毎年の自己評価を義務付けること。

この決定を受け、平成23年8月には、児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設の5種別の施設運営指針および里親等養育指針の策定と、第三者評価ガイドラインの改正、里親支援の充実について、6つのワーキングにより検討が開始されました。本年3月には、すべての指針と第三者評価基準の策定が終わっています。

## 指針と第三者評価基準との

### 関連性

指針は、すべての種別に共通した構成となっています。

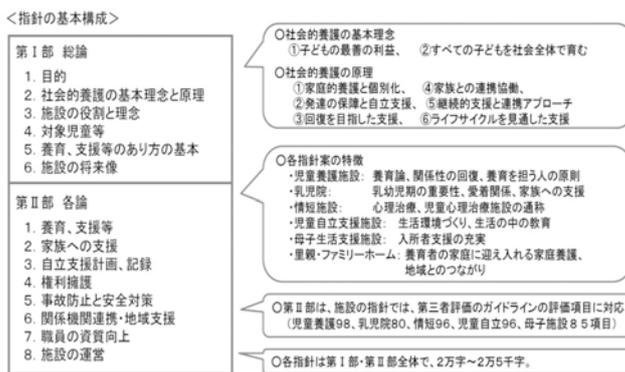
第1部は「総論」で、社会的養護の基本理念と原理(この部分は、6つの指針に共通)、施設の役割、対象児童、養育等のあり方の基本、将来像等という構成になっています。

第2部は「各論」で、第三者評価基準の評価項目に対応する構成になっています。(図1)

また、各指針の内容は、めざすべ

き方向であり、第三者評価において「A」評価に対応する内容になっています。

〔図1〕厚労省資料：施設運営指針、里親等養育指針の構成



### 社会的養護関係施設の 第三者評価の仕組み

社会的養護関係施設以外の種別の第三者評価の仕組みでは、まず、第三者評価の受審は任意で、自己評価の規定もありません。

さらに、都道府県ごとに設置されている推進組織が策定した評価基準で評価が行われること、評価は推進組織が認証した評価機関が行うこと、評価調査者の研修は都道府県推

〔表2〕厚労省資料：社会的養護関係施設の第三者評価の仕組み

	社会福祉事業推進の第三者評価の仕組み (平成16年通知)	社会的養護関係施設についての第三者評価の特別の仕組み (平成24年通知)
受審	規定なし（受審は任意）	3年以上1回以上実施しなければならない
評価基準	都道府県推進組織が策定した評価基準	全国共通の第三者評価基準。ただし、都道府県推進組織が独自に策定可能
評価機関	都道府県推進組織が認証した評価機関	全国推進組織が認証した評価機関（全国で有効） ただし、都道府県推進組織が認証した評価機関も可能
認証要件	福祉サービス第三者評価機関認証ガイドラインに基づいて都道府県推進組織が策定した第三者評価機関認証要件に基づき認証を行う。	全国推進組織の認証の場合は、 ①社会福祉事業一部の評価のための都道府県認証を受けた評価機関については、 ・全国推進組織の行う社会的養護評価調査研修を完了 ・更新時には、一定以上の実施実績と評価の質が要件 ②全国推進組織の認証については、 ・①+第三者評価機関認証ガイドラインによる要件 都道府県推進組織の認証の場合は、 ・都道府県推進組織の行う社会的養護評価調査研修 ・更新時には、一定以上の実施と評価の質が要件
研修	都道府県推進組織は、評価調査者養成研修及び評価調査者継続研修を行う。	全国推進組織は、社会的養護の施設に係る評価調査者養成研修及び評価調査者継続研修を行う。 ただし、都道府県推進組織の認証の場合は都道府県推進組織が研修を行う。
利用費調査	利用費調査を実施しようとする。	利用費調査を実施する。
結果公表	公表することについて事業所の同意を得ていない第三者評価結果については、公表しない。	全国推進組織が、評価機関から報告を受け、評価結果を公表する。ただし、都道府県推進組織でも公表可能
自己評価	規定なし（自己評価は任意）	自己評価を行わなければならない

※「全国推進組織」は、全国社会福祉協議会

進組織が行うことなど、都道府県単位の整備をすすめることとなっています。

一方、社会的養護関係施設の仕組みは、評価の義務付けのほか、施設数が少ないことから評価機関が評価経験を蓄積して質の高い評価が行えるよう、原則として全国共通の評価基準で評価が行われ、評価機関の認証と評価調査者の研修は、全国推進組織である全国社会福祉協議会が行うという広域的な仕組みとすることになっています。（ただし、都道府県推進組織で独自に評価基準を策定し認証や研修を行うことも可能とし

ています。）（表2）  
注：第三者評価は、施設と評価機関の契約により実施します。

### 評価者養成研修と 評価機関の認証状況

全国社会福祉協議会では、本年度後半から評価がスタートできるよう、すでに5月、6月、9月に「社会的養護関係施設評価調査者養成研修会」を実施しており、以降、逐次評価機関の新たな認証を行っています。評価機関は、9月19日現在で53機関となっています。

福井県においても、広域的な仕組みを原則としながらも、福井県内の評価機関も評価ができるよう、9月25日に、すでに評価調査者として登録されている方々を対象に「評価調査者継続研修」が実施され、43人の方が社会的養護関係施設の概要や評価基準について研修を修了しています。

### 社会的養護関係施設の 第三者評価への期待

6月に実施された「社会的養護関係施設評価調査者養成研修会」で、施設の立場から、ある施設長が運営指針を踏まえた第三者評価のポイントについて、以下のように触れています。

**【第三者評価のポイント】**

- 施設が社会的認知を得られる場所になっているか
- プログラムが進められる生活なのか、主体的な生活なのか
- 穏やかな日々の生活をめざす努力、工夫があるか
- 意見表明ができる環境になっているか
- 地域に開かれ、人が出入りする日常があるか
- 子どもの気持ちに思いをさせているか
- 子どもを対象化していないか

社会的養護関係施設としては、第三者評価は「施設運営の質の格差解消の切り札」と位置づけています。第三者評価は、この期待に応えられるべくものとして、これから大きな役割を果たしていくことになりま



# ～つないで陸高！なじょにがすっぺinふくい～

## 講演&トーク

講演には、岩手県陸前高田市の戸羽太市長にお越しいただき、東日本大震災直後から現在までの陸前高田市の状況について、お話しをいただきました。特に、発災時の現実起こっていることと思えないほどの想像を絶する状況や、復興を進めていくうえでの被災した方たちへの思いや苦勞されていること、また、復興のシンボルとして高田松原の一本松を保存することになったいきさつや、未来を担っていく子ども達のためにもがんばらなくてはいけない、といった復興にかける思いを語られました。



講演の後には、福井テレビの松枝隆一氏をナビゲーターに、会場にご来場いただいたみなさんと、トークセッションをしていただき、一つひとつの質問や思いに真摯に答えていただきました。

講演中、何度となく戸羽市長が口にされた、「被災地を忘れないください。」

という言葉。そのために、お忙しい公務の合間をぬって、被災地の状況を伝えるため全国をまわっておられるとのことでした。「復興には心で寄り添うことが一番大切。」参加者の一人ひとりがあらためて被災地への思いを胸にされたのではないのでしょうか。



## フィナーレ

フィナーレでは、つながる体験コーナーで制作したバルーンウォールをお披露目し、最後の一マスを、戸羽市長にメッセージを書いていただいたバルーンで埋め、完成させました。

### 戸羽市長 直筆のメッセージ

このバルーンウォールに表された「虹」のデザインには、陸前高田と福井をつなぐ「かけ橋」の意味と、虹は雨上がりの晴れ間によく見られることから、「悲しみの先にある希望」を意味しています。

バルーンウォールの完成と同時に、会場では、陸前高田市で撮影された笑顔のDVDが上映されました。

「被災地に徐々に笑顔が戻ってきて気がついた・・・  
その笑顔に励まされていたのは、私たちの方だった」

被災地の悲惨さを伝えるのではなく、被災地で目の当たりにした人々の生きる力や強さを伝えたい。そして、笑顔に象徴される「希望」や「未来」を会場全体で共感し、共に生きていく社会の豊かさを体感してもらいたい・・・DVDに込められたそんな思いで会場が満たされた瞬間でした。



これからも、この想いを大切にしたい・・・。

**「つないで陸高！なじょにがすっぺ  
(みんなの思いをつないで陸前高田をなんとかしよう)」**

DVDの制作にあたっては、「笑顔プロジェクト～つながろう東日本～」のご協力をいただきました。



笑顔プロジェクト  
つながろう東日本

公式HP

<http://www.lafestainc.net/smile/>

# ふくい・つながりフォーラム 2012

## 第59回福井県社会福祉大会

福井県の福祉向上に功績のあった民生委員児童委員、福祉施設、社会福祉団体、社会福祉協議会の役職員、ボランティア等 147 名に対し、福井県社会福祉協議会会長より表彰状が授与されました。

また、あわせて、平成 24 年度福井県ボランティア作文コンクールの表彰式も行われ、最優秀賞 3 名には福井県知事から、優秀賞 4 名・入選 12 名・学校賞 1 校には福井県社会福祉協議会会長から表彰状が授与されました。

受賞者および入賞者のご紹介は、次頁以降をご覧ください。



## 第3回エコキャップアートコンテスト



このコンテストは、ペットボトルのキャップを使って大きな絵（アート）を制作するもので、県民のみなさんが「つながり」を実感したり、その「楽しさ」や「喜び」を共感したりする機会づくりを目的に平成 22 年度から実施しています。

第 3 回目となる今年は『輪』をテーマに 1 畳部門、2 畳部門あわせて 36 チームがエントリーし、フォーラムにおいて、作品展示・審査・表彰を行いました。

どちらの部門も、力作ぞろいで、会場では、「迫力がある」「色彩がきれい」「年々レベルがあがっている」等の声が聞かれました。

### 受賞されたグループのみなさん

#### 1 畳サイズ部門

金賞 くりのみ児童館&清水北地区デーホーム  
銀賞 輪らっていい友！  
銅賞 金津高等学校 JRC 部

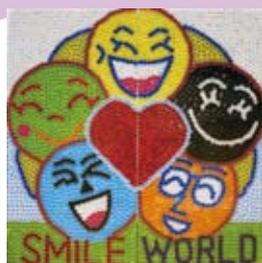
#### 2 畳サイズ部門

金賞 春江町民生委員児童委員協議会  
銀賞 福授園当田事業所  
銅賞 大野さらめさ

### このコンテストで集まったキャップは、約 316,000 個

コンテストで使用したキャップは、各グループごとに、リサイクルし、その売り上げで海外の子どもたちにワクチンを提供するエコキャップ運動に寄付していただきます。

(キャップ 800 個で 1 人分のポリオワクチンに換えることができます。)



## 東北応援・つながる体験コーナー

東北応援コーナーでは、岩手県陸前高田市をはじめとする各地域から取り寄せた食品や物産の販売を行い、多くのみなさまに購入していただきました。

また、つながる体験コーナーでは、地元児童館の子ども達や来場者のみなさんのご協力、バルーン（風船）を使った「陸前高田と福井をつなぐモザイクアート作品」を制作しました。多くのみなさんからの心を込めたメッセージをいただき、陸前高田と福井をつなぐあたたかな虹のバルーンウォールができあがりしました。



# 平成 24 年度福井県ボランティア作文コンクール入賞作品決定

福井県社会福祉協議会では、平成 22 年度から、ボランティア活動に県民誰もが参加いただけるよう、市町社会福祉協議会をはじめ各種関係機関と協力して『「つながれボランティアの輪」推進運動』を展開し、さまざまな事業を実施しています。

このコンクールは、その事業の一つとして行っているもので、作文を通じて、県民の皆様のボランティア活動への関心や参加意欲を一層高めてもらうとともに、世代を超えた福祉教育の推進を図ることを目的に平成 9 年度から実施しており、今回で 16 回目となります。

今年度は「ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと」「ボランティアについての自分の思い・考えていること」をテーマに募集したところ、1,108 点のご応募をいただきました。厳正な選考の結果、次の皆さんが入賞されました。おめでとうございます。

**小学生の部：174 点 中学生の部：850 点 高校生の部：77 点 一般の部：7 点**

最優秀賞			
小学生の部	「読み聞かせのボランティアをして」	小浜市遠敷小学校	4 年 清水 萌香
中学生の部	「みんな一緒」	福井市安居中学校	3 年 巢守 世那
高校生の部	「笑顔の鎖」	学校法人北陸学園北陸高等学校	1 年 橘 万佑
優秀賞			
小学生の部	「はじめてのボランティアかつどう」	坂井市東十郷小学校	1 年 吉川 昊汰
中学生の部	「本当のボランティアとは」	学校法人北陸学園北陸中学校	1 年 田中 宏樹
高校生の部	「ボランティアを体験して感じたこと」	福井県立福井農林高等学校	1 年 西野 ほの香
一般の部	「Kさんとの出会い」	福井市	青木 さゆり
入選			
小学生の部	「ボランティア活動をしてみて」	越前市南中山小学校	6 年 小林 達明
	「ボランティアについて」	坂井市大石小学校	5 年 石丸 雪乃
	「地いきの方とキャンドル作り」	池田町池田小学校	4 年 中村 侑加
	「バイカモボランティア」	勝山市北郷小学校	4 年 松川 遥奈
中学生の部	「私が目指すボランティア」	勝山市勝山南部中学校	2 年 山尾 有代
	「ボランティアの力」	南越前町南条中学校	2 年 河原 彩理奈
	「ボランティア活動で大切なこと」	福井市社中学校	1 年 山下 葵
高校生の部	「ごみ拾いボランティア」	福井市清水中学校	1 年 栗田 雄斗
	「ボランティアって難しい？」	福井県立丹南高等学校	3 年 揚原 慎子
	「親切とは。」	福井県立福井農林高等学校	1 年 松本 貴子
一般の部	「ボランティアについての自分の思い・考えていること」	坂井市	中宮 治美
学校賞	「子育てサロン なかよしばあばの会」	若狭町	砂原 恵美子

(敬称略)

## 小学生の部 最優秀賞

### 「読み聞かせのボランティアをして」

小浜市遠敷小学校 4 年 清水 萌香

わたしは、保育園の子ども達に本を読みに行く読み聞かせのボランティアをしました。

まず最初に、いっしょに読み聞かせをする友達と図書室へ行ってどんな本が良いか相談しながら紙しばいを選びました。次に、読む部分のわりあてをして何度も練習しました。保育園の子ども達も、きょう味をもつてくれるようにセリフの部分は、気持ちをこめて読んだり、楽しそうにしている部分は、え顔で楽しい感じで読んだりしました。読み聞かせ当日は、子ども達を前にしてとてもきんちょうしたけれど、読んでいる間になんて見たり、聞いたりしてくれたのでしっかりと終わることができました。他の人の読み聞かせが終わってから子ども達も、



「ありがとうございました。」  
 と言ってくれた時は、本当にうれしかったしボランティアをやった良かったなと思いました。  
 わたしは、読み聞かせのボランティアを経験して相手の気持ちや立場になってものを考えられるようになったと思います。それは、本を選ぶ時にどんな物語ならよること聞いてくれるかなとか、楽しんでくれるかなと考えるかなと考えるながらできた

「ありがとうございました。」  
 と言ってくれた時は、本当にうれしかったしボランティアをやった良かったなと思いました。  
 わたしは、読み聞かせのボランティアを経験して相手の気持ちや立場になってものを考えられるようになったと思います。それは、本を選ぶ時にどんな物語ならよること聞いてくれるかなとか、楽しんでくれるかなと考えるかなと考えるながらできた

からです。それに、紙しばいを読むスピードや声の大きさも大切だと思えました。わたしには、妹がいて時どき本を読んであげたりするので妹以外の小さな子に紙しばいを読んであげることがなくてドキドキしたけれど、とても良い経験ができたので自分にも自信ができました。

まだまだ読み聞かせ以外にもボランティア活動はたくさんあるのですね、はるかしたたりせずに積極的に参加したりしていきたいと思えます。だれかのために何かをしてあげることがこんなにも気持ちが良いので、自分も成長できるんだということが分かったので読み聞かせのボランティアは、とても良い経験になりました。

まだまだ読み聞かせ以外にもボランティア活動はたくさんあるのですね、はるかしたたりせずに積極的に参加したりしていきたいと思えます。だれかのために何かをしてあげることがこんなにも気持ちが良いので、自分も成長できるんだということが分かったので読み聞かせのボランティアは、とても良い経験になりました。

## 中学生の部 最優秀賞

### 「みんな一緒」

福井市安居中学校 3年 巢守 世那

今年の夏休み、私は母に連れられて、弟と二人母の会社の手伝いをするようになった。母の会社は、身体障害者の介護をすることでこの日は村祭りという日だった。私はこの話を聞いて、本当は思っただけのことだけれど、いやだなあと思ってしまった。しかし、弟は違った。頼まれた途端、目がキラキラと輝きやる気で満ちあふれていた。

そして、当日。私はやる気がないままだった。私が初めて与えられた手伝いは、ご飯をあげることにあった。普通に焼き鳥をあげるだけなのに、ちぎって食べやすい大きさにしてはいけない。正直、面倒くさくて手が汚れるので私の顔はふてくされていたと思う。けれど次に会った男性は、私に話かけるとニコニコ笑って、とても楽しそうだった。私はこんな態度をとっているのに、なんて優しいんだろう、心があたたかいのだろうと思った。その時、私は気持ちが変わった。障害者だろうが関係ない、それに



私よりずっと人間らしいじゃないかと思ひ、私も楽しく元気に接した。すると、他の人も集まってきてみんなと仲良くなれた気がした。

最後の手伝いときには、弟と一緒に取り組んだ。障害者の方が脱いだじんべいの名前をチェックしていくというものだ。私は仲良くなかったもののまだ少し抵抗があった。それなのに弟は、本当に一生懸命頑張っていた。「なんでそんなにできるんや。」って聞くと笑顔で、「みんなの喜んだ顔が見たいんや。」と言った。私はこのとき、すごく恥ずかしく自分が見じめだった。手伝いだというのに、何かもらえるだろうって心で思っていたからだ。それなのに私

よりも五つ年下の弟が私よりも頑張っている見返りを求めずに……。手伝いというのは、利を得るためにするわけではなくて手伝いをする相手を喜ばせたいという気持ちなんだと実感した。

## 高校生の部 最優秀賞

### 「笑顔の鎖」

学校法人北陸学園北陸高等学校 1年 橘 万佑

母は最近ボランティアを始めた。日本に来てまもない外国人に日本語を教える、というものだ。そのために母は、毎週水曜日に仕事の休みをとって国際交流会館に向かう。なぜそこまでして母は、お金のもらえないボランティアに精を出すのか、私には分からなかった。そんな私をよそ目に、母は毎週必ず出かけていった。

ある日帰宅すると、母が電話を使っていた。カタコトの日本語を伝えていた。話が終わり電話を切ると母は「ボランティアで友達になった中国人と今度テニスをするんだ。」とうれしそうに私に言った。

それから母はボランティアの事をよく話すようになった。授業の内容や外国人のおもしろい言動などを生き生きとした笑顔で私に語ってくれた。そんな若返ったような楽しそうな母を見てみると、なんだか私まで笑顔になった。

私はこれまでボランティアとは、相手の人を助けること、つまり笑顔にすることだと思っ

た。しかしボランティアは外国人を笑顔にさせ、母を笑顔にさせ、そして私も笑顔にさせる。笑顔がどんどんつながっていくような感じがした。

「笑顔の鎖。」  
ボランティアにはこの言葉がふさわしいと思った。

水曜日になると母はまた笑顔で出かけてゆく。外国人を笑顔にさせるために。私を笑顔にさせるために。



# 平成24年度 福井県社会福祉協議会会長表彰【敬称略】

## 民生委員児童委員功勞 (5名)

福井市 武田 邦夫  
 福井市 村上 泰代  
 敦賀市 岸本 紀代子  
 敦賀市 下野 郁尚  
 敦賀市 平山 直樹

## 社会福祉施設功勞 (39名)

福井市 藤原 行 順 愛全園  
 福井市 清水 美千代 愛全園  
 福井市 相馬 恭子 あさくら苑  
 福井市 梅田 明百美 あさくらの家 東郷  
 福井市 西田 静江 ケアハウスあさくら  
 福井市 山下 澄子 リバティーハウスあさくら  
 福井市 荒川 沙織 リバティーハウスあさくら  
 福井市 渡辺 浩基 足羽更生園  
 福井市 笠原 智寿子 ケアハウス・グリーンライフ大和田  
 福井市 佐々木 利枝 高雄苑  
 福井市 吉田 民代 福井県和敬学園  
 福井市 奥出 光希 福井市ふれ愛園  
 福井市 田中 美奈恵 若越ひかりの村  
 福井市 北川 潤子 若越ひかりの村  
 大野市 高松 博美 大野和光園  
 大野市 木間 史 大野和光園  
 大野市 佐野 富美代 大野和光園  
 大野市 北村 麻子 大野和光園  
 大野市 水上 直美 大野和光園  
 大野市 木瀬 かおり 大野和光園  
 大野市 前原 久美子 大野和光園  
 大野市 杉田 啓子 大野和光園訪問看護ステーション  
 大野市 中野 美子 大野和光園訪問看護ステーション

## 【敬称略】

鯖江市 宮川 明己 うぐいすの里  
 鯖江市 福島 清美 福授園  
 越前市 萬 正毅 あいの里  
 越前市 田中 江津子 越前市児童養護支援 なないろ  
 越前市 中村 智美 第3和上苑  
 越前市 佐々木 淳 第3和上苑  
 越前市 増田 誠一 第2和上苑  
 越前市 内山 恵理子 デイサービスわかたけ  
 越前市 福田 雅典 障がい者支援センターひまわり  
 越前市 土谷 正行 若越みどりの村  
 越前市 辻 こそえ 寿楽園  
 坂井市 櫻井 敬一 ラーフかすみ  
 南越前町 畑 ゆかり ほのぼの苑  
 越前町 吉田 恵 第三光が丘ハウス  
 越前町 伊藤 千カ子 第三光が丘ハウス  
 越前町 今澤 宏美 第二光が丘ハウス

## 社会福祉施設功勞 (保育施設) (38名)

福井市 青木 千弘 さくら保育園  
 福井市 十佐近 さおり 仁愛保育園  
 福井市 和田 紀代美 竹里保育園  
 福井市 久々津 智美 東郷保育園  
 福井市 島津 悦子 西安居保育園  
 福井市 乾 幸利子 西安居保育園  
 福井市 島田 一美 湊保育園  
 敦賀市 宮本 真由美 櫛林保育園  
 敦賀市 柴田 かおり 櫛林保育園  
 大野市 谷口 美和子 和泉保育園  
 大野市 中村 幸代 いなやま保育園  
 大野市 中辻 宏美 鹿谷保育園  
 勝山市 加藤 あゆみ 鹿谷保育園

## 社協・民間団体功勞 (24名)

福井市 町田 幸枝 国見地区社会福祉協議会  
 福井市 西川 利榮 酒生地区社会福祉協議会  
 福井市 麩山 敏子 酒生地区社会福祉協議会  
 福井市 梅田 正昭 福井市社会福祉協議会  
 福井市 幾田 等 福井市中央遺族会  
 福井市 嶋分 和子 福井市母子寡婦福祉連合会  
 福井市 島田 昭男 松本地区社会福祉協議会

勝山市 松林 広美 鹿谷保育園  
 勝山市 稲津 直美 しろき保育園  
 勝山市 仲谷 由加里 しろき保育園  
 鯖江市 杉本 洋美 石田保育所  
 鯖江市 手賀 悦子 いずみ保育園  
 鯖江市 佐々木 美江 王山育所  
 鯖江市 渡邊 和美 新横江保育園  
 鯖江市 山口 リエ 新横江保育園  
 鯖江市 山崎 由美 新横江保育園  
 鯖江市 津田 三佳 新横江保育園  
 鯖江市 渡辺 まゆみ 慈光保育園  
 鯖江市 大塚 香織 慈光保育園  
 鯖江市 齋藤 佐栄子 慈光保育園  
 鯖江市 高島 幸子 早稲田保育所  
 越前市 小西 洋子 家久保育園  
 越前市 西嶋 希 北日野保育園幼稚園  
 越前市 佐々木 理江 西保育園  
 越前市 杉本 和江 花筐保育園  
 越前市 平井 真由美 服間保育園  
 越前市 福田 佳子 南中山保育園幼稚園  
 坂井市 北嶋 まゆみ つぼみ保育園  
 永平寺町 南部 聡美 御陵幼児園  
 越前町 朝倉 恵子 あさがお保育園  
 越前町 上野 順一郎 あさがお保育園  
 越前町 菅原 隆之 はぎの保育園

福井市 岡本八重子 湊地区社会福祉協議会  
福井市 山本興治 豊地区社会福祉協議会  
福井市 北島喜一 和田地区社会福祉協議会  
敦賀市 橋本幸子 北地区社会福祉協議会  
敦賀市 大野富夫 南地区社会福祉協議会  
敦賀市 松永里美 敦賀市社会福祉協議会  
敦賀市 嶋スゞエ 東郷地区社会福祉協議会  
鯖江市 堀江邦旺 鯖江市社会福祉協議会  
鯖江市 鉾碕康子 鯖江市婦人福祉協議会  
越前市 坂口富士子 越前市いきいきシニアクラブ連合会  
越前市 高原愛子 越前市いきいきシニアクラブ連合会  
池田町 梅田元子 池田町社会福祉協議会  
越前町 佐々木嵩 越前町社会福祉協議会  
越前町 安藤惠美子 越前町社会福祉協議会  
高浜町 内谷周一 高浜町社会福祉協議会  
高浜町 橋口敏子 高浜町社会福祉協議会  
高浜町 山副修一 高浜町社会福祉協議会

### 永年勤続功勞 (7名)

福井市 堀田悦子 福井市ふれ愛園  
鯖江市 梅田美紀緒 五岳園  
鯖江市 五十嵐幸枝 在宅介護支援センターうぐいすの里  
鯖江市 伊藤知亜紀 デイサービスセンターうぐいすの里  
坂井市 南出みどり 坂井市社会福祉協議会  
越前町 上田憲子 西徳寺保育園  
越前町 倉崎文子 四ヶ浦保育園

### 優良社会福祉協議会 (1団体)

福井市 東郷地区社会福祉協議会

### 優良ボランティア (個人) (25名)

福井市 松原紘子  
勝山市 小林信慈  
勝山市 竹内範国

越前市 荒木百合子  
越前市 笠原仁美  
越前市 菅原節子  
越前市 萩原恂子  
越前市 松原桂子  
坂井市 加藤和歌子  
坂井市 原哲子  
坂井市 山田正代  
永平寺町 朝倉久子  
永平寺町 伊井千恵子  
永平寺町 河合マサ江  
永平寺町 川治芳子  
永平寺町 清水徳子  
永平寺町 清水徳子  
永平寺町 砂絹代  
永平寺町 鶴田鈴子  
永平寺町 中川裕子  
永平寺町 南部亮子  
永平寺町 平林義章  
永平寺町 山口順子  
永平寺町 山口武子  
永平寺町 渡辺外枝  
永平寺町 和田秀子

### 優良ボランティア (8団体)

福井市 すいせん会  
福井市 明新ハンドベルクワイア  
敦賀市 調理ボランティアサークル「かけはし」  
敦賀市 敦賀市立香見小学校  
敦賀市 デイサービスボランティアサークル「たんぼぼ」  
敦賀市 配達ボランティアサークル「青い鳥」  
坂井市 ASOBIJYUKU  
越前町 越前地区老人クラブ連合会

## 平成24年度福井県共同募金会長表彰被表彰 【敬称略】

### 共同募金運動奉仕功勞 (個人) (17名)

福井市 石田節子  
福井市 井上毅則  
福井市 加賀要子  
福井市 川中洋治  
福井市 黒川俊枝  
福井市 島田幸子  
福井市 清水和夫  
福井市 玉村美恵子  
福井市 橋詰力  
福井市 橋本つや子  
福井市 橋本好雄  
福井市 美濃村洋子  
福井市 室千代乃  
福井市 森國紀子  
福井市 山口正好  
坂井市 渡邊紀男  
坂井市 坪田富治子

### 共同募金運動奉仕功勞 (1団体)

越前町 宮崎地区民生委員児童委員協議会

第21回全国ボランティアフェスティバルみえ 大会参加報告

◆日時：9月29日(土)・30日(日) ◆会場：三重県津市、伊勢市

**第**21回全国ボランティアフェスティバルみえは、創部50年を迎える皇學館大学雅楽部による演奏で幕開けしました。同大学は、日本には2校しかない神道学科のある大学で、平成23年度のボランティア登録学生数は500名近くにはのぼるそうです。

続いての開会式では主催者挨拶のあと、来賓祝辞で厚生労働省社会・援護局長の村木厚子氏が登壇。

厚生労働大臣の祝辞を代読されました。

会場では、全国で活動を展開している団体のコーナーや、三重県で活動している団体の展示・発信コーナーが特設され、活動の充実ぶりを体感しました。



**開**会式のあとには、テーマトークが開催されました。パネリストは、東日本大震災被災者を

支援するNPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」の黒田裕子理事長、三重県内で外国人の自立支援を行うNPO法人「愛伝舎」の坂本久海子理事長、そして鈴木英敬三重県知事。コーディネーターは



東京未来大学の石阪督規准教授。それぞれの立場から見た、地域社会や行政の課題や、国

際問題、これからのボランティアにおける官民学産の連携について意見交換し、「これからのボランティアはサポートではなく、寄り添えることが一番大切。」「日本人と違う考えの外国人を受け入れることが、社会の活力や豊かさにつながる。」「若い人が気軽に活動できる基盤作りをしていくことが必要」など熱のこもった、未来への意見がなされました。

また、一日目の最後には、人情集団An-Pon-Tanによる力強い公演『夢のバリアフリーミュージカル』で締めくくられました。

― 日目は、「ボランティアたちによる実現可能なバリアフリーアクティビティ」強い思いが原動力となり、人が集まり、人が動く―など、30を超えるテーマに参加者が分かれて分科会が企画されました。

台風の影響で、伊勢神宮での実践フィールドワークは取りやめになりましたが、「車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト」を実施している団体代表の黒田氏、障害者のエコツアーを実現している「海島遊民くらぶ」田中氏、スキューバなど海のアクティビティに挑戦しているチェアウオーカー玉川氏の活動について話を伺いました。「なんとかしたい思いがあつて人が集まり人が動けば、バリアがバリアでなくなる」

その瞬間を共有するのがボランティア活動の醍醐味であることを再確認する機会となりました。



## 第59回福井県社会福祉大会 大会宣言

昨年3月11日に発生した「東日本大震災」を契機に、地域で人々がつながっていきこの大切さやまちづくりの主役がそこに暮らす一人ひとりの住民であることが多くの人たちの間で共有されました。

一方で、現在の社会情勢を背景に、社会的な孤立や生活困窮、人間関係の揺らぎに起因するさまざまな生活問題が、私たちの暮らしに暗い影を落としています。

こうした状況の中、誰もが「ふだんのくらしのしあわせ」(ふくし)を実感できるよう、人づくりやまちづくりに関わる私たちは、その持てる力を結集し、立場や経験を越え、オール福井で福祉課題の解決に取り組んでいく必要があります。

そこで、「福井のふくし」を[いっぱい、いっぱい]すすめていくため、県内の社会福祉関係者の決意を次のように宣言します。

- 一、私たちは、暮らしの中で人々が抱えるあらゆる福祉課題に向き合い、その解決を図るため、既存の制度や仕組みを活かした「ふくし」活動の強化に努めます。
- 一、私たちは、既存の制度や仕組みで対応が難しい、新たな福祉課題の解決を図るため、柔軟さと先駆性をもって「ふくし」活動の開発や制度改革への働きかけに努めます。
- 一、私たちは、暮らしの中で「ふくし」を実感しようとする一人ひとりのさまざまな生活ニーズを紡いで、地域ぐるみで福祉課題の解決を図る仕組みづくりに努めます。
- 一、私たちは、福井の「ふくし」をすすめる主人公がすべての県民であることをここに確認し、まち、ひと、笑顔をつなぐことに全力で取り組みます。

平成24年10月13日

第59回福井県社会福祉大会

人間関係や社会の揺らぎを背景にした孤立や生活困窮など、暮らしに暗い影を落としているさまざまな福祉課題の解決に向け、去る10月13日(土)に開催された「第59回福井県社会福祉大会」に参加した福祉関係者が、その決意を大会宣言として採択しました。



宣言を朗読する村上副会長

第59回(平成24年度)福井県社会福祉大会

大会宣言を採択

## FBC 福井放送番組 『楽しく介護のススメ』のご案内

福井県介護実習・普及センターは、「介護の日」にあわせ、快適な生活を過ごすことができるよう、また、一人でも多くの県民の皆様へ介護を身近なものと感じていただくため、福祉用具の選び方・使い方や住宅改修に関するテレビ番組を下記のとおり放送します。どうかご覧ください。

### FBC 福井放送 『楽しく介護のススメ』(番組名が変わる場合があります)

平成24年11月11日(日)午後3時30分から4時

(再放送)平成24年11月26日(月)午前9時55分から10時25分

在宅での介護を楽にする、福祉用具のご紹介や住宅改修に関する最新情報をお伝えします。

【テーマ】

(放送順は変わる場合があります)

快適な生活を過ごすための福祉用具の選び方・使い方

- 1 移動(歩行器の種類と選定の仕方)
- 2 入浴(足腰が弱った時の浴槽の入り方と福祉用具)
- 3 ベッドまわり(ベッド機能の使い方)安心・安全な環境について、いくつかの事例紹介
- 4 住宅改修(トイレ、浴室、階段、廊下)

## 寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

9月28日(金)  
福井県生命保険協会 様(福井市)  
福祉巡回車 2台  
寄贈先 小浜市社会福祉協議会 様  
越前市社会福祉協議会 様

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。



スマイル

# 未来に笑顔



## Profile

松田 安希子 さん

(福) 祥徳会  
モアヤング こもれびホーム  
介護福祉士 3年目 ユニットリーダー

このコーナーでは、「笑顔 (スマイル)」をキーワードに福祉職の方々に登場いただき、福祉の現場で活躍しているからこそ『見える』『言える』、福祉の魅力について語っていただきます。

## ボランティアがきっかけ

学生の時に特養にボランティアに行った際、利用者の方に笑顔で「ありがとう。また来てね。」と言ってもらったことがとても嬉しく、強心に残りました。このことがきっかけで、福祉系の大学に進学し、介護福祉士を取得しました。

## 介護職にやりがい

実際に介護福祉士として働く中で、自分が企画した行事で利用者の方に笑顔が見られたり、今までできなかったことができた瞬間に立ち会えたりすることが、何よりのやりがいにつながっています。利用者の方は、老化により日常



できるような他の職種と相談しながら、支援をしていかなければならないと思っています。

## 大切にしていること

「笑顔」と「挨拶」を心がけています。どんな仕事でもそうだと思いますが、笑顔と挨拶はコミュニケーションの第一歩だと思っていますので、どんなに忙しくても笑顔と挨拶は忘れないようにしています。

## 今の目標

廊下で転びそうになり、「大丈夫か。気をつけなあかんよ」と逆に利用者の方から心配されることもある私ですが、利用者の皆さんとの信頼

関係を大切にして、寄り添う介護ができるような介護職をめざして努力していきたいと思っています。

## 笑顔の素

### 笑顔の素

利用者の方が笑顔でいてくれることです。自然とこちらもいつしか笑顔になります。



### 取材を終えて

穏やかな笑顔が印象的な松田さん。利用者さんの話をしている時の表情からは「人が好き、介護の仕事が好き」という素直な思いと、利用者さんへの愛おしさが満ち溢れていました。